

平成31年度 学校評価 関係者評価

目標	良い点	課題	改善策
<p>「一生懸命勉強する」生徒の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校として授業力向上や道徳等の研修を計画的に実施できたのは良かった。 ・全教員が公開授業を実施している。 ・先生同士合同研修会を実施している。 ・教員の授業力向上に対する取り組みは教え方に工夫した成果が見られる点は良かったのではないのでしょうか。教員に褒めてあげてください。 ・学校の目標が分かりやすい。 ・教師の公開授業は継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な研修とひとり一人の日々の授業実践の中でのそういう工夫が繋がっていないところがある。生徒と人間関係も含めてより一層の工夫を。 ・地元の学校に愛着を持つようにしてほしい。 ・アンケート調査結果の分析(とらえ方)の改善が必要である。例えば、「授業は楽しく、わかりやすい(生徒)・・・とても当てはまる25.3%(H30)→21.4%(R1)、やや当てはまる51.3%(H30)→57.1%(R1)」について、2項目の合計で肯定的回答として処理したのでは、課題をみつけることはできない。「とても当てはまる」が4ポイント近く落ちている所に目を付けて徹底的な分析をしないと、授業改善にはつながらない。その結果、自己評価として「新しい研究テーマがイメージしづらい」との記載がある。研究テーマはイメージするものではなく、自校の課題分析から自ずと生まれるものである。授業研究が生徒の現状から離れて、研究のための研究に陥りかけている感がする。 ・読書活動については各生徒に対し書籍の推薦をされてはどうか。読書後の感想を話し合う等が必要と思う。 ・家庭学習が少ない状況調査の結果を踏まえ、小学校からの積み重ねが大切だと思う。小学校と連携しいて取り組む必要がある。 ・教師間の結束をチャンスととらえ、生徒指導、授業を頑張るって教師が自信をもって、保護者や生徒からの信頼を取り戻してほしい。 ・3年生以外の先生に進路について聞いても的確な回答が得られないことも残念、情報の共有をしてほしい。 ・中学校進学してから数学につまずく生徒が多いことは否めないと思う。数学の基礎基本でつまずく生徒と応用でつまずく生徒と状況が異なるにもかかわらず同じ土俵で同じ課題を与えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な研究授業のみでなく教科内や学年内で日常的にお互いが参観し、意見交換できる集団作り、職場作りを。 ・生徒が先生に何事も相談質問しやすいように。 ・学力調査結果、アンケート調査結果の分析→課題の明確化→具体的改善策に汗をかかずして、効果的、組織的な授業研究は望めない。 ・対策についてはPDCAにて管理サイクルを回して改善を進めてほしい。 ・生徒にとって「わかる」「楽しい」授業を研修会などで意思統一して改善してほしい。 ・授業の中で「めあて」を表示しきっちりおさえ、分かる授業づくりに努めてほしい。 ・とても難しいことかと思うが、その子のレベル(基本で悩む基本は何とかなっても応用の段階で悩む、応用もそこそこやれる)に合わせて少しでも上昇志向を持たせて「間違えないで解けた」という達成感を味わってもらうことが必要では。何も数学だけでなく主要3教科においては同じかと思います。

<p>「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的に部活動が活発で学校行事も意欲的に取り組んでいる。 ・地域行事に活発に参加している。 ・体育大会、合唱コンクール等の学校行事に、一生懸命取り組む生徒の姿勢がみられる。 ・部活動が活発に活動され、県大会、阪神大会等に出場生徒たちがチームワーク技術の向上が図れた点は良かった。 ・体育大会や文化発表会で生徒と教師の一体感を見ているものとして、達成感や感動が伝わってくる。 ・教室内の掲示や整理整頓は生徒の落ち着きを感じる。 ・トイレや手洗い場が清潔に使われていて気持ちが良い。 ・道徳の授業が入り、いじめ問題に関心を持ち一人ひとりが考えられたことは良いと思う。 ・いじめアンケートを実施することで早期発見に努めていることは今後も継続していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感が低いところが気になる。家庭での学習時間が低いところも同様。 ・登校時間が昼前や午後に行っているところが見受けられる。 ・問題行動に対する組織的体制が整っていないため、個別事案に短期的、中長期的展望がないまま、個々の教師が対応している様子が見られる。 生徒指導が機能する授業が不十分であるため、生徒一人一人の良さを見つけることができず、一律的な指導に陥り、学校に居場所を持つことができない生徒(不登校)の増加につながっているのではないかと。 ・目標に向かって頑張る部活動でなければ成長しない。 ・先生は適切な指導を行っている。相談できる先生がいると進路についての情報を回答した保護者の割合が低いのは残念です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や行事での意欲が学習に活かされていない。褒めることも含めより一層家庭の協力と地域力(ボランティア等)の活用をCSとしても考えたい。 ・早寝早起き朝食等保護者の責任が大。 ・教師一人一人が危機意識を持って、生徒指導と研究が一体化した実践に取り組む。生徒指導(共感的人間関係の中で、自己決定ができ、自己存在感を持つ)とは何かをもう一度再確認する必要がある。 ・不登校の生徒に対して小学校との連携をお願いしたい。 ・早寝早起きについて保護者に対しては70%くらい当てはまるという回答だが実際のところ子供たちはどれくらいの割合で心掛けているのか。
<p>開かれた・信頼される学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会のメンバーの充実は良かった。地域行事でのボランティアも定着してきた。 ・地域ボランティアサポーター制度。 ・学校便りが丁寧で分かりやすい。 ・以前に比べると朝食している生徒が増えている。 ・生徒がボランティアで地域行事に参加してくれ、地域の大人と関わっているのは良いと思う。 ・部活動と関係なくボランティアサポーターとして活動してくれる生徒さんが出てきてくれたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識としてボランティアに参加している割合より、地域行事への参加意識が低い。まだ自ら参加している生徒が少ないのか。これが達成感や自己肯定感につながるところであり、参加方法に工夫を。 ・部活以外での地域行事参加が少ない。 ・アンケート調査結果の分析をみると、保護者・地域から信頼される学校のために、現状から課題を見つけようとする姿勢が不十分である。 松中校区ならではの学校・学校運営協議会・保護者・地域のつながりの具体像がまだ見えない。 ・職員のとやる気(士気)向上に取り組んでください。 ・生徒の自尊感情が低いことから色々な面から褒めて励まし、自信を持たせることが大切である。 ・生徒はボランティア活動を義務ではなく自主的行動と自覚し地域としても、感謝しPRしていく必要がある。 ・HPの更新、子供たちの松中の様子が例年より少なく保護者地域に積極的に松中世の姿の情報発信をしてほしい。 ・ボランティアサポーターとしての地域行事参加は多いのに地域行事に参加しているという意識の違いがある。このずれを改善する必要があります。後々地域での次世代の担い手となることを期待しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々なボランティアがあるが実際に活動している人を招いての講演会をCS活動として実施しては。 ・学校運営協議会を設置しているメリットを保護者、地域に伝える工夫が必要である。 ・学校活性化に向けて保護者意識の向上を。